

制度のプロ！ 「行政担当者」

施策の立案など「肝疾患対策の基本」を担っています。

制度について聞かれたら、
行政にバトンを
渡してください！



行政ではこんなお仕事をしています！

行政は国、都道府県、市町村、県の関連機関等と幅広いです。

<都道府県>

- ① 肝疾患対策の立案と実施…肝疾患の状況を把握し、様々な検討（目標・実施計画・予算など）を行いながら施策を立案し、関係機関と連携して事業を実施します。
- ② 肝疾患の啓発…肝炎ウイルス検査未受検者、精密検査未受診者、未治療者を拾い上げ、適切な治療につなげるため、肝疾患に関する啓発活動（広報、肝炎ウイルス検査の無料実施など）を行います。
- ③ 肝疾患に係る制度の周知…新たな制度などについて、市町村、拠点病院、一般の医療機関、肝Coなどに周知します。また、住民向けにわかりやすいホームページやリーフレットなどの資材を作成します。
- ④ 研修会の実施…肝Coの養成研修会やスキルアップ研修会、医療機関に対する肝疾患に関する研修会等を実施します。肝Co同士がつながれる機会を作ったり、活動の周知等を行います。

<市町村>

母子保健事業や特定健診の場などで、幅広い年代の方に直接声をかけることができます。その際に肝炎ウイルス検査を勧めたり、情報を得て、受検、受診、受療につなげることができます。

<保健所>

市町村と連携しながら、肝炎に関する普及啓発や研修会を実施します。また医療費助成制度等の窓口でもあり、肝炎ウイルス検査の実施なども行っています。

（原則初回は無料、一部の市町村では有料）

行政担当者の肝Co 活動事例



拠点病院に積極的に顔を出す

行政の強みは、関係機関との調整や連携を構築できることです。肝疾患対策を進めるにあたり、拠点病院との連携はとても重要です。一般の医療機関、関連機関などにも積極的に顔を出して「顔の見える関係」を作りましょう！



キャラクターの作成

イメージの付きやすいキャラクターや肝Coの目印となるバッジは啓発に効果的です！



ホップ★

制度について説明する

肝疾患に関する制度は数多く、複雑なので、肝Coがすべてを把握するのは大変です。制度について聞かれて困ったときには、行政担当者にバトンを渡すように伝えましょう。

啓発資材をつくる

お堅い表現にならず、わかりやすい資材を作るために、肝Coの意見や、患者さんの意見も取り入れましょう！

啓発資材の活用

住民健診などで保健指導を行う際に肝Co養成講習会の資料や都道府県・拠点病院が作成した啓発資料を利用して健診結果や助成制度等を説明しましょう！

ステップ★★

養成研修会やスキルアップ研修会の開催

WEBの普及に伴い、今まで参加が難しかった方も研修会に参加しやすくなりました。講義形式の研修会だけではなく、実際の活動に即した事例検討会を行うと、より肝Coの活動が促進され、横のつながりが深まります。準備から拠点病院と連携するのがおすすめです。

地域医療との連携

地域の専門医療機関や地区医師会の専門医との連携を密にして、患者さんを専門医へ紹介しやすい環境を整えていきましょう！

ジャンプ★★★

施策などに肝Coの意見を取り入れる

施策は行政だけで検討していると思いますが、問題がどこにあるのか、どのようなアプローチが必要なのか、現場の声を反映させてみてはいかがでしょうか。

企業などへの啓発

出張肝炎ウイルス検査や肝臓病教室など、企業に向けて行う活動もあります。働き盛りの方はなかなか時間が取れません。そのような方へ職域では受検や受療を勧めることができる有用な場所です。治療と仕事の両立支援のサポートを行ったり、取り組みの優良な企業を表彰することで対策が進むこともあります。職域肝Coを配置するのもコツです。

患者さんへのサポート体制の構築

医療費助成に係る住民票や課税証明などの交付手続きを簡略化したり、手数料を減免するなど、保健指導だけでなく、行政の立場で患者さんをサポートする体制づくりを検討してみましょう！

いかに肝Co活動を把握し、活動のヒントを伝えるか？

都道府県の肝疾患担当者が、市町村の肝疾患担当の活動や、都道府県全体の肝Coの活動を把握するのは難しいため、研修会等の情報共有の場を設けることが重要です。

肝Co側から行政に活動報告をする仕組みを作ったり、世界肝炎デーなどのイベント時に活動をLINEなどのSNSに投稿し、活動内容の共有をしている県もあります。

肝Coから 行政へのニーズ



職種毎に強みが違うので、できる活動も様々です。同じ職種同士の意見交換の場は、同じ目線、同じ考えだからこそ共感や、モチベーションアップにもつながります。同じ職種の肝Coと連携できる機会や、情報を発信してください。また他の職種の取り組みを知ることで連携のきっかけにもなります。

患者さんに説明するための現場で使える資材がたくさんほしいです！

私たち行政（都道府県）は肝Coを養成し、活動を支援する事が役目ですから、活動しやすい環境や体制を整える支援をしたいと考えています。しかし、現場での活動や何が困っているのか、どんな資材が必要なのか等、把握できていないのが現状です。ぜひ肝Coの声を聞かせてください！

忙しい業務の中で複雑な制度を案内するのは大変ですよ。そんな時はぜひ、行政と患者さんを結ぶ懸け橋となって私たちに患者さんをつないでください。

行政担当者 からのお願い



最新情報を迅速に正しく伝えることの難しさ

新しい制度が導入された際は、情報をいかに迅速かつ正確に周知することが肝要です。最近では、多くの手段を用いて情報発信ができる時代となりました。YouTube配信などを活用している県もあります。肝Coが増えるにつれて、情報発信の方法も検討していく必要もありますね。



先輩肝Coからのアドバイス

肝疾患の担当になったら、まずは肝Coの研修を受けることをお勧めします。肝炎に関する知識だけでなく、横のつながりができるきっかけにもなります。

行政は異動が多いですが、肝疾患の部署だけしか活動ができないわけではありません。さまざまな課で、そこでしかできない活動がきっとあるはずですよ。行政同士だからこそ連携がしやすいのも強みです。肝Coの知識を活かした活動を継続してみてもいいでしょうか？例えば、精神福祉センターの職員と協働し、アルコール疾患への取り組みを行っている県もあります。

所属	肝Coが関与できる健康施策業務
母子関係	妊婦を通じた保健指導
子供関連	保育園などでのHBV感染予防
医務感染症関連	肝炎医療費助成、検査費の助成、ワクチン接種
精神保健関連	肝疾患患者のメンタル支援、アルコール関連対策
健康政策関連	健康施策の立案、地域包括連携による支援
職員関連	職員の健康管理
教育関連	教職員の健康管理、小中高生への教育



実際の特定保健指導などの事例検討会を開催し、拠点病院の医師からアドバイスをいただきました。お互いの活動も知ることができますし、次からの指導へ活かしますよ。



自県だけでなく、他県の取り組みも知りたいですね。他県より相談の電話があっても県を越えての情報共有は難しいものです。行政が中心でやるのが難しいければ、拠点病院やメーカーさんの協力を得て近くの県同士で研修会やイベントなどを行っているところもありますよ！

肝疾患対策への予算付けは毎年頭を悩ませます。特にウイルス性肝炎が減少している昨今では特に難しくなってきましたよね。しかし、肝疾患対策として行うべき事業もありますので、日頃から拠点病院との連携を大事にしましょう。

